

第 56 回東葛しぜん観察会

我孫子の歴史探訪・自然にふれよう

小島紀彦（我孫子市）

日 時：2009 年 11 月 1 日（日） 天気：晴

場 所：我孫子駅～手賀沼畔・水の館～手賀沼公園～香取神社

参加者：一般 45 名 指導員 20 名 合計 65 名

担当指導員：小島紀彦 坂部久美子 鈴木とし子

北の鎌倉と言われている我孫子では、大正時代に白権派の文人達を中心として多くの文化人が生活しており、その史跡が数多く残っているところです。

観察会では、駅から手賀沼畔の水の館までの行き来で約 6km を歩き、古き良き大正ロマンの時代に浸たりながら、史跡と自然を交えた盛りだくさんの観察会となりました。明治時代の駅や旧水戸街道の我孫子宿の写真を見て貴い、朝日新聞の幹部だった杉村楚人冠の住居跡、西洋史の大家の村川堅固の別邸、血脇守之助の石碑、志賀直哉の住居跡、柳宗悦（むねよし）、嘉納治五郎の別邸跡などを廻り、最後は香取神社の古木を見て、時代をさかのぼって文化の香りを味わいました。

途中では世界一小さい蝶園（あおむし君のお家）で色々な種類の蝶のサナギや食草を見て、子の神大黒天では前方後円墳の古墳を見て、折り返しの水の館の広場で昼食。水の館の展望は千葉県眺望 100 選になっており、自由参観で各人に遠景を楽しんで貰ったり、ここで管理している絶滅危惧種の水生植物の「ガシャモク」を観察。手賀沼畔では早めに渡ってきたオナガガモ、沼にいるダイサギ、コブハクチョウ・バリケンなどを観察できました。

ちょっと変わった観察会の見方もありますと説明しての資料を配り、白権派の文人にあやかって、途中で見られる樹木について、スダジイでは万葉集の歌を、エノキでは徒然草の堀池僧正の話を、イチョウでは明治の歌人与謝野晶子の歌や、メタセコイアでは昭和天皇の歌会始めの歌などを伝えたりしました。文学的把握から四季を感じようと「楓」「桜」「椿」の樹木の横では、文字を見せながら、これが夏、これが冬、これが春と説明。「秋」は今が秋です、肌で感じて下さいと案内しました。もう一つは、「観察会で金運をつかもう」と歩きながら見られる 万両（マントリョウ）、千両（センリョウ）、百両（カラタチバナ）、十両（ヤブコウジ）の樹木を見て、一風変わった植物の説明が出来ました。

今回参加者の半数ほどの方が、以前に東葛しぜん観察会の催しに来られたリピーターで占められ、多くの方々に来ていただくのは有難いことですが、一般道を使っての観察会で参加者が多いと心配が増える事を気にしました。結果として、4班のグループ分けで案内できる丁度よい人数で良かったと思っています。参加者の感想で、「歩くのが早かった」とか「距離が長く最後の方は疲れた」の声もあったが、全体的に他の催しでは史跡の案内だけとか、ウォーキングだけの企画だが、この観察会は樹木、植物、野鳥などの話が聞かれるとか、班分けが上手にされているとか、指導員が細やかに気配りされて楽しいとか、加えて史跡のこともしっかり教えて貰えたとか、普段味わえないものが得られたと多くのお褒めの言葉をいただきました。

20 名という大勢の指導員の参加により、4班にグループを分けての案内で、交通整理、タイムキーパー、説明のバックアップなど細かに対応して貰い、充実した観察会になりました。一般参加者にも喜んでいただき、無事に終了でき安堵しています。指導員のご協力に感謝しています。

